

多様なシーンに利用できる秋輪ギクの新品種「佐賀 R K 1 号」					
[要約] 秋輪ギク新品種「佐賀 R K 1 号」は、花色が淡紫ピンクの八重の抱え咲きで、舌状花が多く切花ボリュームに優れる。「神馬」と同等の生育開花特性を有し、側枝の発生が少ない。開花した状態での出荷に向き、和洋問わず多様な用途に利用できる。					
佐賀県農業試験研究センター 野菜・花き部・花き研究担当			連絡先	0952-45-2143 nougyoushikensenta@pref.saga.lg.jp	
部会名	花き	専門	育種	対象	キク

[背景・ねらい]

キクは本県の主要花き品目であり、近隣の他産地との差別化に有利な有色輪ギクの新品種育成について現場からの要望がある。さらに、近年のキクの用途拡大に伴い、仏花以外の需要も高まってきている。

そこで、本県の花き生産振興を図るため、本県オリジナルブランドとなり得る多様な用途に利用できる特徴的な花色の輪ギク新品種を育成する。

[成果の内容・特徴]

1. 秋輪ギクの新品種「佐賀 R K 1 号」は、輪ギク品種「花秀芳」を種子親、「神馬」を花粉親に用いた交雑から得られた実生集団の中から選抜して育成した。
2. 花色は、淡紫ピンク（JHS コード No.9202、日本園芸植物標準色票による）で、花形は八重の抱え咲き、葉は濃緑色である（図 1、図 2）。
3. 自然開花期は 10 月下旬から 11 月上旬で、開花の早晩性は対照品種「神馬」と同じ中生である。
4. 最低温度 13 の栽培管理下では、「神馬」と同等の生育開花特性を示し、電照消灯後 60 日以内で開花する（表 1）。
5. 舌状花数が「神馬」よりも 100 枚以上多く、花のボリュームがある（表 1）。
6. 側枝発生は中程度で、「神馬」と比較して少なく、摘枝・摘蕾作業の省力化ができる（表 2）。

[成果の活用面・留意点]

1. 最低温度 13 の栽培環境において、11 月～翌年 5 月までの開花作型に導入できる。
2. 本品種は、開花させた状態での出荷に向き、和洋問わず、フラワーアレンジメント等の贈答用や仏花として多様な用途に利用できる。また、蕾の状態での一般的な輪ギクの出荷形態にも利用できる（表 2、表 3）。
3. 側枝の発生が多くないため、夏季の高温期における採穂性が劣る。
4. 平成 28 年 2 月に品種登録出願した。

[具体的なデータ]

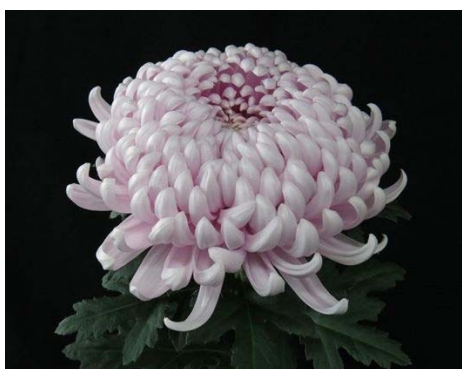


図1 秋輪ギク新品種「佐賀 R K 1号」



神馬 佐賀 R K 1号
(対照)

図2 秋輪ギク新品種「佐賀 R K 1号」の概観

表1 秋輪ギク新品種「佐賀 R K 1号」の開花特性 (2015年2月開花作型²)

品種・系統	開花日	到花 ¹ 日数 (日)	切花長 (cm)	葉数 (枚)	切花重 (g)	茎径 (mm)	摘枝・ 摘蕾数 (個)	花径 (cm)	小花数	
									舌状花 (枚)	管状花 (枚)
佐賀 R K 1号	2015年2月6日	58	94.5	35.9	83.2	6.6	23.3	13.2	334.5	12.1
神馬	2015年2月5日	57	101.5	47.2	114.7	6.3	42.1	13.8	197.0	60.3

²挿し芽：2014/10/2、定植：2014/10/23、電照：定植～2014/12/10(22:00～2:00)、最低温度：13、施肥量：N、P₂O₅、K₂O 各1kg/a

¹電照消灯から開花までに要した日数

表2 秋輪ギク新品種「佐賀 R K 1号」の現地適応性検定試験の結果 (2014年度)

評価項目	評価 ²
栽培性	<ul style="list-style-type: none"> ・「神馬」と同様の栽培管理が可能で、栽培しやすい。 ・トルコギキョウ等の草花よりも栽培しやすい。 ・側枝発生が少なく、摘枝作業の省力化ができる。 ・高温期(8～9月)の採穂が少なく、増殖効率が劣る。
切花形質	<ul style="list-style-type: none"> ・開花時の花色が美しく、花のボリュームがある。 ・伸長性に優れ、茎が直立で硬く、しっかりしている。 ・一般的な輪ギクと同様の蕾の状態ではなく、開花させた状態で出荷したい。

²県内のキクおよび草花生産農家により評価を受けた

表3 秋輪ギク新品種「佐賀 R K 1号」の商品性評価の結果 (2014年度)

評価者	評価
県内花市場	<ul style="list-style-type: none"> ・桃色系の花色は葬儀需要に限らず、用途が広い ・茎が硬く、花のボリュームが優れる
県外花市場 (東京都)	<ul style="list-style-type: none"> ・「ディスプレイ」²に向き、通常の輪ギクとは異なる商材としてのPRが必要 ・和の雰囲気を持ち、使いやすい花色で、秋から翌春まで利用できる ・通常の輪ギクの出荷形態とは異なり、「ディスプレイ」²として利用したい ・キクの仏花以外の需要が高まっており、関東圏では期待できる
県内生花店	<ul style="list-style-type: none"> ・花色が美しく、濃ピンクや白、緑色の花と合わせやすい ・ブーケやフラワーアレンジメント等の和洋の両用途に利用できる ・舌状花が多く、開花が進んでも露芯せず、花持ちが良い

²スプレーギク品種を輪ギクと同様に摘蕾し、一輪に仕立てて栽培し、開花した状態で利用するキク

[その他]

研究課題名：佐賀オリジナルブランドとなり得るキク新品種開発および栽培技術の確立

予算区分：県単

研究期間：平成22年～26年度

研究担当者：坂本健一郎、高取由佳、宮崎雄太、千綿龍志、松尾洋一、川崎孝和、松村司、
徳永敦子、大藪榮興